

FACTS ABOUT BPA

規制制度は健全な科学という強固な基盤に頼らなければならない

2024年2月26日(月)

米国毒性学会(SOT)の学会誌である Toxicological Sciences 誌に掲載された [最近の論評](#) は、食品接触材料中のビスフェノール A(BPA)の耐容一日摂取量(TDI)レベルの引き下げを求める欧州食品安全機関(EFSA)の意見書(2015年に設定した暫定TDIと比較)について検討したもので、この研究の著者らは、規制措置の根拠が不十分であるとしている。

論評は次のように指摘している：「EFSAの有害性評価プロセスは科学的に健全ではなく、ごく少数の質の低い動物実験に基づいて低用量影響があるという結論に至っている。これらの影響及び導出された結論は、EFSAの最近のレビューでは考慮しなかった複数の質の高い研究を含む、入手可能な証拠の全体から十分に支持されていない。」

結論において著者らは、BPA(あるいは他の物質)の安全な用量推定値を求める今後の評価方法について以下の提言を行っている：

- 利用可能なすべての証拠を含める；
- 研究の質を評価するための明確な指針を提供する；
- 研究結果の信頼性を考慮する；そして
- 有害影響、アピカルな影響(またはその前駆症状)であり、実験動物とヒトを対象とした研究結果に矛盾が無く、一貫性のあるエンドポイントを選択すること。

欧州医薬品庁(EMA)とドイツ連邦リスクアセスメント研究所(BfR)は、EFSAが用いた解析を批判しており、両団体はEFSAのとったアプローチに反対すると表明している。米国でも同様に、BPAをめぐる科学的証拠を評価してきた米国食品医薬品局(FDA)は、[「食品容器包装における現在許可されている用途では、BPAは安全であるとの結論に変わりはない。」](#)と述べている。

規制は公衆衛生と安全性を提供し、公衆の信頼を維持するために、頑丈で強固な科学的基盤を持たなければならない。本解説は、2024年1月23日に Toxicological Sciences 誌に掲載され、以下のリンクからアクセス可能である。<https://doi.org/10.1093/toxsci/kfad136>.